

対話の森

澤田真一¹

弘前大学地域プロジェクト推進センター
地域未来創生センター
Regional Future Research Center

みなさんご参加
楽しみにしています

対話の森

~第2回シンポジウム~

日時：11月23日(水・祝)
13：00～(受付開始12：30)
場所：弘前大学 総合教育棟306号室

～プログラム～

第1部 講演会
「居場所づくり」をテーマに平野秀一さん、
柳田創さんよりご講演いただきます。

第2部 シンポジウム
対話と共生について、4年ゼミ生と澤田先
生がそれぞれの切り口で発表します。

参加希望者はメール(ssawada@hirosaki-u.ac.jp)、又は
SNS(LINE, Twitter, Facebook, Instagram)のDMから参加
の旨をご連絡ください！

主催：弘前大学人文社会科学部現代オセアニア論ゼミ

はじめに

コロナ禍の現在、我々の考えるべき最重要項目は「ふれる」であり、密を避けるとは「ふれない」社会の形成で、そのコミュニケーション不全はやがて世界全体を覆うほどの副作用を生むはずである。

いとうせいこう（朝日新聞 2020/11/28 より）

平時にはそれほど注意を払われることはないかもしれませんが、不安の時代に私たちは社会にオファーできるものを持っています。それは「ことば」で直にお互いに「ふれる」ことができる「場」です。

密を避けるための大学生活のオンライン化で、活動できる空間が限定され、新たな出会いの機会を奪われ、孤独の中で生きる力や将来への希望があたかも潮が引くように自分から失われていくのを感じたという学生からの声が、何件も私のもとに寄せられました。コミュニケーション不全の副作用はすでに現れ始めています。このような切実なニーズの前に無関心であってよいのでしょうか。「対話の森」は、そのため一つの応答です。

¹ 弘前大学人文社会科学部 多文化共生コース

1 背景と目的

2017年に「対話の森」の前身である「弘前大学ヒューマンライブラリー」は始まりました。「ヒューマンライブラリー」は、誤解や偏見を受け、差別や排除の対象となりやすいマイノリティの方々が「(生きている、生身の)本」となって、自身の体験や今もなお抱えている問題、また苦悩を通して紡がれた思想や価値観・生き方等を「読者(参加者)」に話して伝えるイベントです。この試みは2000年にデンマークで始められてから、世界各地に広がりました。日本では「ヒューマンライブラリー」は明治大学、駒澤大学、東京大学などの複数の大学・団体に開かれていたものの、東北の大学での開催はまだありませんでした。

2017年11月25日に第1回目の「弘前大学ヒューマンライブラリー」が、弘前大学人文社会科学部とスクランブルエッグ(青森県のセクシャルマイノリティの方々の自助グループ)との共催で実現しました。12名の方が「本」役として、LGBTQ・学習障害・いじめ・引きこもり・障害者支援・コミュニティづくりなどのテーマについて当事者の立場から話してくださいました。お話の後は「本」役の方を囲んでの少人数によるディスカッションの時をもちました。当事者の方との直接の対話は、読者にさらに深い理解をもたらすものとなりました。当日は100名を超える参加者があり、その模様は複数のメディア(NHK、デーリー東北、毎日新聞、陸奥新報、東奥日報)で取り上げられました。2018年には第2回目、2019年には第3回目のヒューマンライブラリーを開きましたが、2020年には新型コロナウイルスの感染拡大により、学内での大規模なイベントの開催が不可能となりました。そのような中、年に1回のイベントではなく誰もが安心して定期的に来ることのできる「場」、そして顔と顔を合わせて安全に「対話」ができる「場」を望む声の高まりに応える形で、2020年11月21日に「顔の見える図書館・対話の森第1回シンポジウム」が開催され、そこで話し合われた内容を踏まえて翌月の12月18日に「対話の森」は生まれました。

「対話の森」の活動母体は、現代オセアニア論ゼミの学生たちです。ゼミでは「差異」と「共生」をキーワードに、どうすれば差異が差別につながらずに安心して自分のままでいられる、そして自分の能力を誰にも何にも妨げられることなく発揮できる平和で寛容な社会を創ることができるのかについて、活発なディスカッションが繰り返されてきました。そこで話し合われた共生の思想やアイデアとシンポジウム参加者のアンケートを参考に、私たちは次のような「場」を創り出すことを目的として活動を始めました。

- ・肩書きや地位という鎧を脱いで、かけがえのない人格として安心してお互いが触れ合うことのできる「場」
- ・多様性と平等が保証され、誰もが否定されることなく、自由な交わりと生きた時間を享受することができる「場」
- ・開かれた対話を通じて、何か新しいものが生み出される「場」

2 実施内容

「対話の森」は毎月1回(最終木曜日18:00~19:00)開かれます。「joy」(活動は楽しくなければいけない)、「significance」(活動には意義がなければならない)、「empowerment」(活動に参加することで力を得られなければならない)を3本の柱として1時間のプログラムを作成します。プログラムは、第1部:パフォーマンス(10分)、第2部:グループディスカッション(40分)、第3部:専門家による1ポイントレッスン(10分)の3部構成となります。

参加者にはそれぞれ特技や才能、趣味があり、パフォーマンスの時間は希望者がそれを披露する機会となります。(歌やダンス、楽器の演奏、詩の朗読、作品(折り紙、写真)やペットの紹介、旅行体験、お

笑いなど) パフォーマンスはパフォーマーの自己紹介とアイスブレイキングを兼ねており、これで集まりの雰囲気はとても和やかになります。

ディスカッションでは参加者が4～5名のグループに分かれ、毎回決められたテーマについて話し合います。「多様性」と「平等」を保障するために、次の5つのシンプルなルールを設定しました。1. 肩書きは捨てる 2. ファーストネームで呼び合う 3. 相手を否定しない 4. 一人一人の言葉にきちんと反応する 5. 対話を楽しむ

プログラム最後に、教員もしくは専門家が「共生」や「対話」についての1ポイントレクチャーを行います。「対話」の価値と方法を知り、「対話的な態度」を身につけることが「差異」に寛容な社会を構築することにつながっていくことを共に学びます。

次に令和4年度(2023年1月現在)の活動内容を記します。

・第15回対話の森 2022/4/28 306 講義室 (参加者 25名)

テーマ：こころの暗闇

1. 「こころの暗闇」とはどのようなものだと思いますか。
2. こころが苦しくなる思い出はありますか。
3. 自分の弱さや辛い経験、反道徳的な衝動について他者に伝えることをどう思いますか。

・第16回対話の森 2022/5/26 306 講義室 (参加者 27名)

テーマ：介護・ケア

1. 介護をした・された経験がある人はその時のエピソードについて聞かせてください。まだ経験がない人は、自分が介護する・される時のことを想像して教えてください。
2. 一人で介護することと複数人で介護することにどのような違いがあると思いますか。
3. 元々良好な関係に合った家族が、在宅介護をきっかけに関係が悪化することがあります。どうすれば介護する側とされる側のつながりを良好に保てると思いますか。

・第17回対話の森 2022/6/30 306 講義室 (参加者 26名)

テーマ：ジェンダーとファッション

1. 学校・職場で強制的に服装を決められてしまうことについて、どう感じているか教えてください。
2. 社会の偏見や周りの目によって、自分らしさを閉じ込めてしまった経験があれば教えてください。
3. 近年「ジェンダーレスファッション」といった性別を超えたファッションが注目されていますが、実際にはまだまだファッションに寛容ではないと考えます。どうすればもっと社会はファッションに寛容になると思いますか。

・第18回対話の森 2022/7/28 306 講義室 (参加者 30名)

テーマ：いじめ

ヒューマンライブラリー形式で、3名の当事者に「本」となって自身の経験についてお話していただいた後、「本」役の方を中心にしてグループディスカッションを行いました。

・第19回対話の森 2022/8/25 302 講義室 (参加者 28名)

テーマ：贈与と見返り

1. 何かを与える・贈ることを通して、無意識に見返りを求めていたことはありますか。あるいは、相手を思っただけの行動だったにもかかわらず、期待していた反応とは違ったことはありますか。
2. 見返りを求めることをどう思いますか。また、相手の喜ぶ反応や感謝の言葉も見返りとするならばどうでしょうか。
3. 聖書には、「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」という言葉があります。ただで与えられた経験があれば振り返ってみましょう。そのうえで、あなたがこれから行いたいと思うことがあれば教えてください。

・第20回対話の森 2022/9/22 306 講義室 (参加者 25名)

テーマ：おとなとこどもの共生

1. 虐待としつけをどのように区別しますか。
2. 育児ノイローゼやうつなどで苦しんでいる人がいます。育児を楽しむポイント、こつは何かだと思いますか。
3. 周囲の人や環境など、育児を支えるものは何だと思いますか。また、周囲はどのような対応や心がけが大切だと思いますか。

・第21回対話の森 2022/10/27 306 講義室 (参加者 30名)

テーマ：わたしたち/かれら

1. あなたにとって「わたしたち」というのは、誰ですか。
2. あなたにとって「かれら」というのは、誰ですか。
3. 両者の間の境界線について、どう思いますか。

・第2回対話の森シンポジウム 2022/11/23 306 講義室 (参加者 39名)

第1部 講演会	サワダ・ハンナ・ジョイ	「ボーダーレス・クラスルーム」
	柳田 創	「居場所づくり」
第2部 シンポジウム	木曾 琴子	「贈与と見返り」
	小山内 明純	「わたしの心には暗闇と光がある」
	伊藤 史恩	「親と子を守るコミュニティ」
	諫山 莉奈	「介護と対話」
	葛西 月奈	「多様なファッションの受け入れ」
	笠井 菜央	「対話による子どものケア」

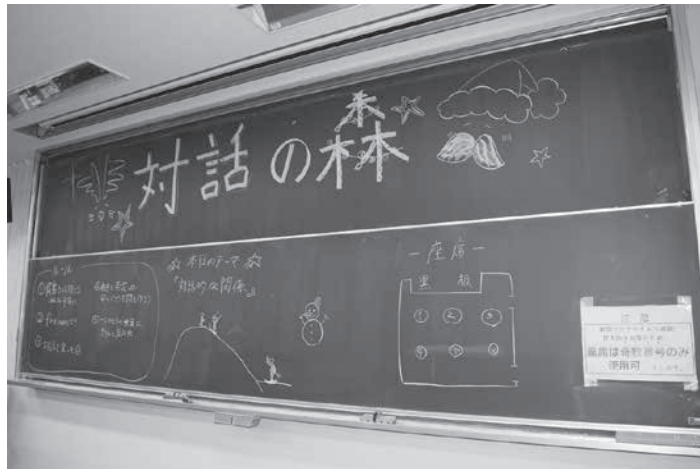
・第22回対話の森 2022/12/22 306 講義室 (参加者 25名)


テーマ：対話的な関係

1. 「対話的な関係」とは、どのような関係だと思いますか。
2. 「対話的な関係」は、どのようにして作ることができると思いますか。
3. 「対話の森」のルールをよりよくするためのアイデアはありますか。

おわりに

「対話の森」には大学生のみならず、社会人や高校生など様々な方々が参加してくれます。「対話の森」を開催するたびに、私たちはフィードバックを募り問題点や改善点を洗い出し、誰にとってもより安全でより心地よい「場所」を作っていくことができるよう努めています。昨年末にイングリッシュ・ラウンジの先生から孤立している留学生についての相談があり、そのための策として留学生・外国の方のための英語版の案内を作りました。留学生が参加してくれるようになった今、私たちは英語と日本語のバイリンガルでの会の進行・ディスカッションを新たに試みています。これからも「対話の森」が、より多様性にかかれた「場」となれるよう、参加者とともに成長していけますことを心より願っています。





☆What is the “Taiwa-no-Mori”?
more details

Taiwa-no-Mori means 'Forest of Dialogue'. This event is organized by seminar students researching what we can do to create a society where 'differences' do not lead to 'discrimination'. We meet to create a place where a variety of people can be themselves just as they are. Once a month, we decide on a theme and have an 'open dialogue' about it.

We want this place to be:


- 1) where diversity and fairness are valued, and everyone can interact freely as equals.
- 2) where something new can be created through open dialogue.

◎Examples of past themes

<ul style="list-style-type: none"> • Diversity • Picture Books • Communication Skills • Human Library • Our Place • Gift 	<ul style="list-style-type: none"> • Emotions • Child Abuse • Bullying • Gender and Fashion • Care • Us/Them
--	--

etc.

Why don't you come to the "Forest of Dialogue" and enjoy sharing your ideas with various people, just as you are? We are all looking forward to meeting you!




WELCOME TO THE “TAIWA-NO-MORI”
~a forum for open dialogue~

Why don't you join us in a relaxed space to talk about subjects we all care about? Anyone is welcome, regardless of nationality, age, gender or sexual orientation!

Place : General Education Building, Hirosaki University (usually Room 306)
Date : The last Thursday of every month
Program : 5:45 pm ~6pm Reception
 6pm~7pm Performance
 Group interaction and discussion
 Words from Shin (Sawada sensei)

Participants : This is a place where everyone is welcome to speak as well as listen.
People who are not confident about speaking Japanese can use English instead. Let's enjoy and learn from our "diversity"!

<p style="text-align: center;">If you would like to participate, please contact here first !!!</p> <p style="text-align: center;">Email ssawada@hirosaki-u.ac.jp Shinichi Sawada (Associate Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences, Hirosaki Uni.)</p>	<p style="text-align: center;">More information about this event</p> <p>Instagram: hirosakidaih1 LINE : @356yeirl Facebook Link: https://www.facebook.com/hirosakidaih12022</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  Instagram QR </div> <div style="text-align: center;">  LINE QR </div> </div>
--	--

